

ELGOLAZO 号外  
特別版

EG the Football Journal

何がなんでも

# タイトルを

INTERVIEW

宇佐美 貴史

©Getty Images



AFC CHAMPIONS LEAGUE TWO™

## FINAL

2026.5.17 (Sun) 02:45 KICK OFF  
(日本時間)

キングサワード・ユニバーシティ・スタジアム (サウジアラビア)



DAZNで独占LIVE配信!



アルナスル  
(サウジアラビア)



ガンバ大阪

宇佐美 貴史(うさみ・たかし)

1992年5月6日生まれ、34歳。京都府出身。178cm/69kg。  
G大阪JY→G大阪Y→G大阪→バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)→ホッフェンハイム(ドイツ)→G大阪→アウクスブルク(ドイツ)→デュッセルドルフ(ドイツ)を経て、19年6月にG大阪に二度目の復帰。G大阪ではJ1、J2、天皇杯、ナビスコカップ(現・ルヴァンカップ)を制した経験があり、今回優勝すれば自身アジア初タイトルとなる。 ©AFC

# 自分のプレーで スタジアムを 静まらせる

## FW 7 宇佐美 貴史 ガンバ大阪

現地時間5月16日、ガンバ大阪がAFCチャンピオンズリーグ2優勝をかけて、アルナスル(サウジアラビア)と対戦する。  
今回、話を聞いたのは宇佐美貴史。  
青黒の大黒柱は、クラブ10個目の主要タイトル獲得に向けて、どのような青写真を描いているのか。

取材日:4月30日(木) 聞き手:雨堤 俊祐

エグいチームとやれるのは楽しみ

—宇佐美選手はケガの影響もあり、AFCチャンピオンズリーグ2(以降、ACL2)のノックアウトステージでの出場はまだありませんが、その中で決勝まで進出したチームの戦いぶりをどのようにご覧になっていましたか。  
「タフな環境の中、本当に全員で戦って勝ち進んでいたので、いまのところ本当に素晴らしい成果をチームとして挙げていると思います」

—決勝の相手はサウジアラビアのアルナスルです。クリスティアーノ・ロナウド選手、サディオ・マネ選手など、ヨーロッパの第一線で活躍してきた選手がそろうチームですが、彼らに対する率直な印象を聞かせてください。  
「名前だけ聞いたら、エグいですね。サッカーゲームの中で獲得するような選手たちはかりなので。そのようなやりがいのある相手とACL2の決勝という舞台でやれるのは楽しみです。みんなそういうマインドだと思います」

—ガンバ大阪は2008年のクラブワールドカップで、当時マンチェスター・ユナイテッド所属のクリスティアーノ・ロナウド選手と対戦しています(試合は3-5で敗戦)。当時、宇佐美選手は高校1年生でしたが、印象に残っていますか。

「皆さんの中には善戦したという感覚があると思いますが、僕はユナイテッドの強さをひしひしと感じました。世界はすごいな、という感覚でしたね。ロナウド選手とは直接対戦していないので特に思い入れはないですが、決勝ではこれまで経験したことのない“アウェイ感”を経験できると思うので楽しみです」

ゴールを生み出すのが自分の仕事

—ご自身以外で、決勝のキーマンになると思う選手は誰でしょうか。  
「キャプテンじゃないですか、中谷(進之介)くん。アウェイという環境であったり、対戦相手のレベルであったり、試合の中で難しい場面は必ず訪れます。そのときに問われるのが、チームに安定感や安心感をもたらすこと、堂々とプレーすることです。彼はそういうメンタル的な強さや図太さをもっていますし、クレバーに戦える選手です。そういった部分をチームの中で率先して表現してくれると思います」

—宇佐美選手自身はどのようなプレーで優勝に貢献したいと考えていますか。  
「ゴールを生み出すのが自分の仕事だと思っています。そういったプレーでスタジアムを静まらせることが

できれば、それほどの快感はないと思いますし、それがチームの助けになるので、ぜひそういうプレーをしたいですね」

全員で一つになって勝ちましょう

—ガンバ大阪が近年で最もタイトルに近づいた2024年度の天皇杯では、宇佐美選手はケガで決勝に出場できず、チームも惜しくも準優勝に終わりました。再びタイトル獲得のチャンスがめぐってきた中、タイトルへの思いを聞かせてください。  
「あのときは決勝で負けて、僕も出場できず、悔しい思いをしました。あのとき一緒に悔しさを味わったダニ(ダニエル・ポヤトス前監督)がこのACL2ではグループステージまで指揮して、そのバトンをいまのイェンス(ヴィッシーグ)監督が受け継ぎ、すごくいい形でたすきがつながっていると思います。優勝できればダニにいい報告ができますし、ダニも喜んでくれるはずです。そうならば全員がすごくハッピーですし、あのときの悔しさをぶつきたいと思います」

—勝者のメンタリティーを継承していく上でも、今回の決勝は大事だと思いますが、宇佐美選手はACL2を制する意義や価値は、どんなところにあると考えていますか。  
「やっぱりタイトルって、クラブにとってすごく大きなも

のなんです。国内タイトルもそうですが、それが国際タイトルとなると、喜びや価値はより増します。今回優勝できれば、クラブとして10個目のタイトルとなりますし、選手にとっても心に残るものになると思います。クラブに関わる人たちにとってもすごく大きなタイトルになると思うので、全員が『何がなんでも獲りたい!』という思いを強くもっています」

—宇佐美選手も若いころ、先輩たちとタイトルを獲得したことで得たものや感じたものはありましたか。  
「僕は高校2年生の、プロ1年目のときにタイトル(天皇杯)を獲得しているんですよ。僕はほとんど関わっていませんでしたが、その光景を見させてもらい、ピッチから喜んでいるファン、サポーターの人たちを見たときに『ああ、すごいな。こういう時間や瞬間をサッカーがうまく

なったら作れるんやな』と感じました。そのような経験をさせてもらったことを、いまでもすごく感謝しています」  
—最後に、ファン・サポーターに向けてメッセージを。  
「全員で一つになって勝ちましょう。DAZNで応援してくれる皆さんも含め、みんなで勝利をつかみ、喜び合いましょう」

